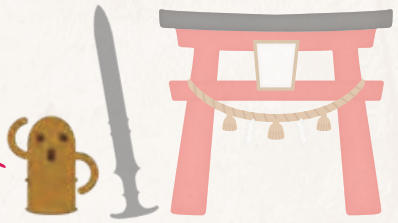
むかしむかし

昔々のそお市

郷土を知る

社会教育課 文化財係 ☎ 099-482-5958

第13回



くろはらかんべえ 黒原勘兵衛の墓

末吉町諏訪方田村集落の墓地内に黒原勘兵衛の墓があります。勘兵衛は江戸時代中期に実在した人物で、さまざまな逸話が残っていますが、その中でも特にスリに銭袋を持たせる話が有名です。

勘兵衛は優れた武芸者でしたが、小さな身体に不釣り合いな長刀を差し、そのままでは引きずるからと、朱鞘の先に車をつけて歩いていたのでとにかく目立ち、人から侮られやすかったといいます。

勘兵衛が島津の殿様から銭を預かり、福山から末吉へ帰る途中、銭袋をスリに狙われます。例のように勘兵衛を侮ったスリは「私も末吉へ行くので、その荷物を持ってやろう」と近づき、隙を見て銭袋を持ち逃げしようと企んでいました。勘兵衛は遠慮しましたが結局、銭袋を持ってもらうことにしました。

歩いていると斬られた小鳥がスリの足元に落ちてきます。目にもとまらぬ早業で、飛んでいる小鳥を斬る勘兵衛を見て、ただ者ではないと恐ろしくなったスリは、光神山で「都城に行く用事ができた」と言って銭袋を返そうとしました。しかし勘兵衛は「末吉まで持ってくれる約束だ」と、とうとう自宅まで持たせ、お茶を出してから「身体が小さいからと言って侮ったことを、これから決してするもんじゃない」と諭しました。

この話は、外見で人を判断してはいけないという教訓ともなっています。たとえ相手がスリであっても約束を守らせ、礼を言い、外見で人を侮るなと諭した勘兵衛のように、器の大きな人でありたいものです。

黒原勘兵衛の墓

仏像が載っている勘兵衛の墓には「通宝智達居士」「宝暦十庚辰天」「九月初四日」右側面に「黒原勘兵衛」「末吉、松山、福山、財部、弟子中」とあり横にある勘兵衛の妻の墓には「梅林自芳大姉」「寛延四巳未天」「正月五日」とあります。これによると勘兵衛が亡くなったのは宝暦 10（1760）年で、妻の方が先に亡くなっていることがわかります。